



オンラインで情報交換・意見交流を実施
コロナ禍での活動の工夫を共有

令和4年2月10日
に、広島県内の地球温暖化防止活動推進員および地球温暖化対策地域協議会の構成員を对象に、脱温暖化活動の活性化を目的とした情報交換・意見交流を行う「脱温暖化推進員フォーラム2022」をオンラインで開催し、23人の推進員と関係者が参加しました。

主な内容は、「最新情報の共有」と「活動報告」「活動に関する意見交換」です。

◆ ◆ ◆

5回目は健康科学セミナー健康支援課の松本課長補佐です。松本さんは保健師で、2002年4月に入職、健康増進課（現：健康支援課）に配属となりました。

時々、「保健師とはどういう仕事ですか？」と聞かれるそうです。

保健師は、健康な方を対象とし、健やかな暮らしをサポートする仕



松本さんは、働く人を対象とした産業保健師です。職業人として過ごす長い期間の健康こそ将来の健康のために重要と考え、産業保健師を志しました。働く人は仕事が生活の中心となりがちで、自分は元気だと考える人が多いので、健康な生活へのアプローチは難しい

近年、従業員の健康を重要な経営資源と捉え、職場の健康づくりに積極的に取り組む「健康経営」が注目されています。健康経営を支援する資格には、健康経営全般を説明できる「健康経営アドバイザー」と、具体的な支援ができる「健康経営工キスパートアドバ



健康支援課 / 松本課長補佐

企業の健康経営のスペシャリスト

ヘシャリスト

イザー」があります。松本さんは両方の資格を取得し、企業の健康経営をサポートしています。

から生活習慣などを推測します。「〇〇ではないですか?」と話すと「何でわかるのですか?」と驚かれることがあります。企業も同じ。例えば時間外労働が多いと、深夜に夕食をとする人が多く、高血圧、肥満や糖尿病などの有所見率が高くなる傾向があります。健康経営工キスパートアドバイザ

さんがいると励みになります」「講話がとてもいいので、社内で広報していいですか」などの言葉をいただくなりがいを感じるそうです。

職場は、人生で多くの時間を過ごす場所、「ここで働けてよかったです」と働く人が思える環境づくりをお手伝いしたい、松本さんはいいも思っています。

意見交換は、「Wi-Fi」□ナで、どんな活動（内容や方法）をしているかを共有しよう！」をテーマに少人数のグループに分かれ、意見交換・情報交換を行いました。今回は少人数という点を

で、情報交換の重要性や新しいことにチャレンジすること、今までの方法を見直すことで新たな効果が生まれることがあるなど、今後の活動のヒントがたくさん出て、充実した時間になりました。

口ノナ禍で、今まで
できたことができない
状況が続いています
が、W-i-t-h口ノナの
現状に応じた活動がで
きるよう、脱温暖化セ
ンターひろしまは、こ
れからもお手伝いして
いきます。

た事例を報告しました。「クン炭拡大プロジェクト」についてほか、三次市にあるマジやるラボが、クン炭のCO₂削減効果や効能について、写真を交えながら報告しました。

短い時間 活かし、
でもたくさんの人 と話ができるよう
に、途中でメンバーや入替えを行いま
す。複数回のワークを行った。この意見交換

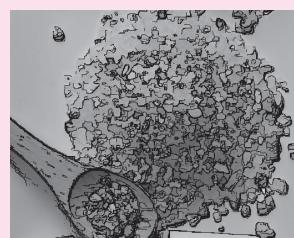


小グループでの意見交換会をファシリテートするスタッフ

漢方外來

は、日本で流通する塩はイオン交換膜法で作られた精製塩だけになってしまいました。しかし、ミネラルの重要性を訴える人々が、塩田での製塩の復活を国に求め続け、1997年によく専売法が廃止されました。今では日本各地で自然塩が作られていますが、日本で消費される塩の80%は精製塩です。

減塩に注意 生命の維持に最も必要



生命維持に最も必要なものは塩です。塩の取りすぎは体に良くないというイメージから、塩不足になっている人が見受けられます。塩が不足すると

では、どうして精製塩というものがあるのでしょうか。1905年から塩専売法により塩は国によって管理されてきましたが、1949年には安価な塩の安定的な流通を目的に、日本専売公社が設立されました。1971年には工業用地確保のため塩田が強制的に廃止されたうえ、輸入や民間による製造までも禁止されました。それ以後